

3月(2018) p4c Japan ミーティング報告

- 日 2018.3.31 (土)
- 時間 17:30-19:30
- 会場 大阪大学中之島センター501
- 参加者 大学院生1名 大学教員2名 小学校教員(国立・公立)4名 中高一貫(私学)教員3名
中等教育校(国立)教員1名 パン屋さん1名(p4c活動主宰) 支援学校1名(skype参加)
- 記録 辻村(※:記録者)

キーワード

p4c japan ワークショップ アーダ・コーダ 立教大学 ICPIC 問い 形 カリキュラムマネジメント
主権者教育

-1.告知:文化祭哲学カフェ@神大附属

○日 時:

5月19日(土) 10:00~11:30 12:30~14:00 14:30~16:00

5月20日(日) 10:00~11:30 12:00~13:30 14:00~15:30

○場 所:神戸大学附属中等教育学校 <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/>

○テーマ:回によってテーマが変わります

○進行役:5回生たち(高校3年生)

○参加費:必要ありません

○定 員:各回30名程度

○問合せ/申込み:必要ありません

○備考:特になし

0.プレ・カンファレンスについて

2月のミーティングでは

「川辺さん(アーダ・コーダ)とSkypeで話し合った。基本線は以前に話した通り。広報はアーダ・コーダさんに任せる。」(ミーティング記録より抜粋)

であったが、状況が変わりました。

立教大学(河野哲也氏)が予定しておられる「ICPIC」<https://icpic.org/> 招致活動と時程が重なるので、プレ・カンファレンスという性格を外す。

8/25(土)開催はそのまま。

名称未定

ポスターセッションのエントリーシート発信先ほぼ決定(発表予定者の一次選抜)

4月中にポスターセッションメンバー決定

前半ポスターセッション

後半 本間さん+高橋さん(関西のオーソリティー/ディシプリン):榊形さん(身内/実践のバックアップ/ディシプリン)→講評(セッション発表者)

発案者川辺さん(アーダ・コーダさん?)には、関東の調整と広報+中川さんと一緒にイベント構造化をお願いする。

といった案に修正されました。その後、メーリングリスト上での紆余曲折ありましたが、概ね基本は上記です。

(※今回、大学教育／研究分野での「子どものための教育」研究活動履歴を辿りましたが、「科学技術政策提言臨床コミュニケーションのモデル開発と実践」(大阪大学臨床哲学研究室 研究期間：平成14(2002)年度～)からの系譜で着実に実績を積み重ねておられることが望見できました。記録者は、不勉強でした。一言説を産出する「ディシプリン」と活用／応用する「現場」との関係性を反省し、p4c japanのアイデンティティを具現化する契機に、ワークショップをしませんか?)

1. ミーティング

国語の授業での p4c 援用可能性について」

森本先生 (小学校6年での実践) - p4c japan ミーティング報告1月参照。

教材：「海の命」(光村図書出版) - 6年生最後の国語教材 添付資料「海の命で問いを選ぼう」参照

どんな問いが選ばれたか？

- A 問いがやさしくて、考えてみたい
- B 問いがやさしいが、考えにくい (考える必要がない)
- C 問いが難しいが、考えてみたい
- D 問いが難しく、考えにくい (考える意味がない)

教師としては、C A の順で選んで欲しかったが、24の問いの中から「自分だったら瀬の主と会ったらどう思うか」(A17 B2 C2 D4)

が、選ばれた。

教師として国語の方向性に引っ張っていったのが、クラスの児童からは小賢しいと思われ、授業自体は低調であった。

なぜ、低調となったのかを児童に「書いてもらったもの」を、それを今回もってくるのを忘れたが、「このような授業にしたい」ということを見透かされていた。

対話：

○問いが悪かった

Q：どのように選んだ？

A：挙手により、減らしていった最後残った二つを多数決で決めた。

6時間配当のテキストだが、問いをたてるのに10時間もかけてしまった。

○生徒、児童が問いの選定をする。

児童を代表する委員がする (白石市での実践から)

中川さんの実践 - 生徒の代表が問いを決める。

教師が、問いの設定をドライブすると教師批判につながる。

教師が問いを立てるとどうしてもそこにみちびこうとしてしまう。

クラスの中で問い - 突破してしまう生徒(児童) - 想定外の発言をし、それを場の構成員が「納得する」が生まれるのを待つ。(中川)

○学校外で p4c を主宰するパン屋さん

学校に行きにくい小学校4年生の児童との経験から、

議論が得意な子は自由じゃない。

形が整っていない(p4cの授業の／国語の授業の)ーが持つことの重要性。

突破した生徒(児童)が生まれ、それが形となると、その**形**に縛られ、**形**の踏襲になるというジレンマ。

○教科活動(道徳以外での実践)

中川さん：国語の授業としては、やってない。授業を配当時間通り行ってから、授業の最後に p4c で対話。

中高一貫私学英语：教材をどのように読んだかを授業の最後でやってみたい。

合宿研修では、p4c を英語でできるかな？と思っている。

小学校教員：**カリキュラムマネジメント**的に考えると、教科指導を超えた育成に目標をおく。

○森本先生：最後の最後で7分交代で児童にファシリテートをやらせてみた。

最後に発言されていない方々から

西宮小学校教員：来年度から支援学級を持つ可能性があるなので、そこでも p4c をしてみたい。

福島特別支援学校教員 (Skype で参加)：p4c 経験ー (喋れない子でもできる)表情を読みとることで対話を形成できる。

愛知農業高校教員：**主権者教育**を3学年亘って行う。

私学6年一貫英語：中3 平和学習 水俣病 修学旅行で p4c をかんばる。

大学院生：学童保育でアルバイトーp4c 的なことを実践してみたい。

大学教員：短大生女子ー感じてはいるけど、考えていない学生に考えることを教える困難さ。

中川さん：東京書籍からも原稿依頼がきている。兎に角忙しい。メンバーに分担をお願いすることも考えています。